



## 学校運営の見直しに向けて

早いもので後期前半がもうすぐ終わろうとしています。平成29年は、「新学習指導要領の告示」「国立教員養成大学・学部・附属学校の改革に関する有識者会議の報告」「働き方改革」等が次々に公表され、学校は文字どおり『変革』を迫られる一年でありました。本校としても、教職員で話し合い、また、前期の学校評価に記載されていた意見も考慮に入れ、対応していきたいと考えています。

学校運営の見直しに向けて、現在、本校で考えていることを以下に書きます。今後、ふたば会執行部や保護者の皆さんとも協議しながら対応していきたいと考えています。冬休みにご家族で話し合ってみてください。1月には後期の学校評価アンケートを予定していますので、お気づきの点、教えてください。



### 1 平成30年度から実施しようと考えていること

#### ① 高学年「外国語科」と中学年「外国語活動」の先行実施、低学年「外国語に親しむ時間」の導入

新学習指導要領の全面実施（平成32年度）に向けて、文部科学省は次のような移行プランを出しています。また、これにより授業時数が中高学年で1時間増えることになり、その時間をどこから生み出すのか、教員の負担増はどうするのか、ということが世間で問題になっているところです。

	H30～31年度		H32年度～
【高学年】	年間50時間 (1.43時間/1週)	→	年間70時間 (2時間/1週)
【中学年】	年間15時間 (0.43時間/1週)	→	年間35時間 (1時間/1週)

本校では、これまでもある程度、中学年で外国語活動を行ってきた蓄積がありますので、来年度から、全面実施と同じように、次のように対応したいと考えています。

	H30年度～
【高学年】	年間70時間 (2時間/1週) ※これまでのように正規の授業時間を使って
【中学年】	年間35時間 (1時間/1週) ※これまでのように正規の授業時間を使って
【低学年】	年間35時間 (1時間/1週) ※朝活動の時間を使って

授業時数が毎週1時間増えることについては、毎朝、担任の裁量で行っていた朝活動の時間の中から、週3回(15分×3回)を1時間の授業時数として充てます。中高学年は国語や算数等の教科の時間として、低学年は外国語に親しむ時間として使う予定です。また、校時表も下のようにより少し変更します。(校時表案)

8:15	8:30	8:40	8:45	9:30	9:35	10:20
朝学習	朝の会		1限	移動		2限

#### ② 出席番号の順番変更

特に、法改正とは関係ありませんが、本校は昔ながらの生年月日順の出席番号を使っています。昨今、公立の学校でも男女混合、アイウエオ順の出席番号を使っています。それに倣い、本校も出席番号をアイウエオ順とします。ただし、本校は男女同数でグループピングのし易さから、男女混合とはしません。コンピュータ処理の関係上、学級編制替えをする来年度の奇数学年から実施します。

## 2 皆さんの意見を聞き、平成31年度以降に実施を検討していること

以下にお示しするのは、保護者の皆さんの意見を聞き、平成31年度以降に見直していきたいことです。もちろん、どれも本校が伝統的に行ってきたことで、大切な意義があることは十分承知しています。しかし、新しいことばかりが増え、本来、学校が大事にしなければいけない、「一人一人の子供に向き合う時間」「日々の授業に向けて、じっくり教材研究をする時間」がとれなくなっていることも現実です。思い切っ

### ① 6年「立山登山」について

ここ数年、悪天候のため登頂できていません。また、8月に時期を移したとしても、ゲリラ豪雨や落雷の危険があり、安心して実施できないのが現状です。また、夏休みを挟んで9月に修学旅行があり、準備に時間をかけられないため、どうしても教師主導の行事になってしまいます。この時期の集団宿泊的な学校行事を修学旅行に絞り、修学旅行をより子供の主体的な学習にしたいと考えます。

### ② 高学年「テキスト学習」について

4年生以下の保護者の皆さんはご存知でしょうか。本校では、5年生の10月頃から市販の問題集を使い、家庭学習を行っています。また、進度に合わせ、学習内容の理解を確認するため、教師が作成した実力テストを行っています。10年前に比べると、全国学力・学習状況調査や小教研の後期学力調査等、テストが増えているにもかかわらず、これまで通りに学習のたしかめや市販のカラーテストも行っており、授業時数の大部分をテストに使わなければならない状況になっています。また、子供の学力にも差があり、問題集が簡単すぎる子もいれば、間違いの直しまで至らず負担に感じている子もいます。さらに、教師にとっても、家庭学習のチェック、実力テストの作成、採点、間違い直し等、負担であることも事実です。思い切って廃止し、日々の授業の質を高めることで、学習内容の定着を図りたいと考えます。



### ③ ココセコムについて

登下校の安全を図るため、1年生(低学年)全員にココセコムを持たせてきました。しかし、必要でない家庭もあること、休日に関わらず誤報の度に教員が対応しなければいけないことが多いため、ココセコムの廃止を考えています。その代用に、保護者責任でキッズ携帯等(できる限りGPS機能と通話機能のみ)を持たせることを許可することも視野に入れていきます。どうしても必要とされる家庭に限定し、持たせる家庭は、学校に使用許可願を出してもらいます。また、学校内での使用は認めません。少しでも問題が発生するようであれば使用を禁止します。

※ふたば会執行部と相談済です。施行に当たっては、学校、保護者、子供で、細かいきまりを作る必要があります。

※これだけネットトラブルの増加、ネット依存症の増加が叫ばれる中、お子さんは大丈夫ですか？

### ④ 少年団活動の運営方法について

10年前に比べると、ずいぶん教員の負担を減らしていただけたようでありがたいです。それでも、教員が一番負担に感じているのが少年団活動です。附属小の名称や施設、備品を使うことは構いませんので、教員抜きの活動にならないでしょうか。また、指導者を確保できない、部員数が減少しているなど、運営が厳しくなった部は、休部や廃部も考えていかなければいけないと考えます。

※見直しを決定しているわけではありません。後期の学校評価に合わせて、アンケートを出しますので、忌憚のないご意見をお願いします。

(副校長 曲 師 政 隆)